

令和2年度 3学期終業式（全日制） 校長式辞

10年前の2011年3月11日、午後2時46分、宮城県沖を震源とするマグネチュード9.0の大地震が発生、宮城県・福島県では、震度7又は震度6を観測し、多くの建物が倒壊しました。

この地震によって発生した津波は、最大40mほどの高さまで斜面を駆け上がり、各地に壊滅的な被害をもたらしました。また津波は、福島第一原子力発電所も襲い、人の健康に重大な影響を与える放射能を自然環境に放出することとなりました。

10年たった現在、亡くなった人、行方不明の人、避難生活などで亡くなった人、合わせて2万2千人余りの尊い命が失われました。

話は変わりますが、今月3月14日、名古屋ウィメンズマラソンが開催され、松田 瑞生選手、この選手は東京オリンピックマラソン代表の補欠となっている選手ですが、2時間21分51秒で優勝しました。

松田選手は1年前の2月、大阪国際女子マラソンで2時間21分47秒で優勝、東京オリンピック日本代表の内定候補の筆頭となりました。しかし、翌月3月の名古屋ウィメンズマラソンで一山真緒選手が、松田選手のタイムより1分18秒早い、2時間20分29秒で優勝したため、松田選手は代表から外れ、補欠となってしまいました。“人生のどん底”に突き落とされた瞬間でした。記者会見で大粒の涙を流し、しばらくは、走ることから遠ざかったそうです。

今週の火曜日、ビジネスマナー講習会の講師 的場さんも、子どもの頃“どん底”を経験し、そこからはい上がってこられました。今の自分では、乗り越えられそうにない“困難”に、皆さんはこれから何度か出会うことがあるでしょう。その時、“困難”に立ち向かうか、逃げるか、時が来るまで待つか、どれを選択するかは、あなた自身です。

フィギュアスケートの浅田真央選手は、ソチオリンピックで“どん底”から1日で立ち直り、最高の演技で世界中の人々を感動させました。前向きな心を取り戻せたのは、姉の舞さんからかけられた電話の言葉、また、佐藤信夫コーチの支えでした。

「困難は乗り越えられる！ 強い覚悟と支えがあれば…」

今年の卒業生に送った言葉ですが、自分自身の強い気持ちと周りにいる人たちのサポートがあれば、どんな困難も乗り越えられます。

「困難は乗り越えられる！ 強い覚悟と支えがあれば…」

東日本大震災からの復興を進めようとしている日本のように、“どん底”からはい上がってきた松田 瑞生選手、浅田 真央選手のように、“心”を前向きに、プラス思考で毎日を過ごすことができれば、日々成長し、涙を笑顔に変えることができます。

来年度、古知野高校は創立70周年を迎えます。

スローガン“70th Anniversary 笑顔の花を咲かせよう！”を掲げ、ここにいる全員で“笑顔あふれる学校”にしましょう。古知野高校生の笑顔は、私の心を癒し元気を与えてくれる“ほんとうに素晴らしい笑顔”です。

「I can do it!」（私は できる!）

「You can do it!」（あなたなら できる!）

1年間、様々なことに挑戦し、達成してきたことを自信にして、さらなる飛躍を期待します。支えてくれている人への感謝も忘れないでください。

それでは、4月5日の出校日に“新たな決意”を抱いた皆さんに会えることを楽しみにして、3学期終業式の式辞とします。